

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

ふるさと納税ってなに？

熊本市立北部中学校

二年 稗田 陽斗

最近、よく聞くようになったふるさと納税という言葉。ふるさと納税とは、どのような制度でしょうか。

ふるさと納税とは、自分が住んでいる自治体に納めるはずの税金を、生まれ故郷や応援したい自治体を選んで寄付すると、自分で寄付金の使い道を指定できたり、地域の特産品などの返礼品をもらえたりする仕組みです。

自治体のメリットとしては、税収が増え、まちづくりや地域の産業の活性化、地域の魅力を発信することができます。また、災害発生時に、災害からの復興に直接役立てることができま

す。デメリットとしては、寄付者が住んでいる自治体で、本来見込めるはずの税収が確保できず、公共サービスの費用が確保できなくなってしまう可能性があります。

一方で、寄付者は、返礼品がもらえたり、使い道を指定できるメリットもありますが、二〇〇〇円の自己負担は必ず発生するほか、所得に応じた限度額を超えた分には控除が適用されません。

このように、ふるさと納税には、メリットもありますが、デメリットもあるので、控除限度額を把握したうえで、返礼品とその他の手続きに対する手間が果たしてお得なのか、考えたほうが良いのかもしれない。

もしも、ふるさと納税がなかったら、地方の人口が少ない地域では、税収が減り、地元の産業が衰退してしまうことで、地域格差が大きくなるのではないかと考えます。

実際、本来見込めるはずの税収が減り、公共サービスの財源となる住民税が、他自治体に贈られてしまうことから、そのあり方そのものを問題視している自治体もあります。地域のあり方を改めて考えるよいきっかけはあると思いますが、今自分が住んでいる自治体の公共サービスで不足しているものはないか、もっとサービスがあればよいのに思うことはないのである。ふるさと納税を検討するべきではないかと考えました。私の住んでいる熊本市においても、市庁舎の建て替えや渋滞解消のための市電の延伸の提案がなされているものの、なかなか話が進んでいないように感じます。財源だけの問題ではないかと思いますが、あったらいいなと思う公共サービスが実現するためには、税収は大切なものであることに変わりありません。

私は、税金がどのように使われているのか、よくわからない、知らないまま、ただ決められた税金を納めている人のほうが多いのではないかと考えます。地域格差を減らすためにも、ふるさと納税は必要な制度だと考えますが、今住んでいる自治体における公共サービスのことも知って、より住みやすい街づくりができたらいなと思いました。